

なよろ



名寄市観光キャラクター
「なよろう」



<http://www.city.nayoro.lg.jp/assembly/>

令和7年
第4回定例会

第**79**号
令和8年2月1日
発行

注目 

- 新春インタビュー ————— 4～5
- きぼう（堀口 貴恵子さん、下河原 菜々花さん） 14

2/24～ 第1回定例会予定

題字 名寄市立大学 書道サークル てらもと そういちろう 寺本 蒼一朗さん

新年のごあいさつ



各寄市議会議長

山田典幸

新年あけましておめでとう
ございます。

昨年中は、格別のご理解と
ご協力を賜り厚くお礼申し上
げます。

昨今の地方自治体を取り巻
く環境は、少子高齢化や都市
部への流出等に伴う人口減少
が財政運営にも影響を与え、
厳しい状況に置かれています。
山積する多くの課題の解決に
向けて、行政と連携を図りつ
つ議会としての責任を果たせ
るよう、覚悟をもった活動が
求められています。

本年も市民の皆様の笑顔と
幸せのために、議員一丸となっ
て進んでまいりますので、引
き続きご指導を賜りますよう
お願い申し上げます。





迎春

市政クラブ

水間 健詞

谷 聡

今村 芳彦

清水 一夫

遠藤 隆男

東川 孝義

東 千春

山田 典幸

市民ネット

山崎真由美

倉澤 宏

高野美枝子

公明

高橋 伸典

日本共産党

川村 幸栄

市民の声

佐藤 靖

共生なよろ

中畠 孝幸

新春インタビュー



日本中にエアリアル
の魅力を届けるアスリート
になる！

いがらし はると
五十嵐 晴冬



スキーのれんしゅうをがんばって、お友だちといっしょにリフトにのりたいです。

すずき ゆいこ
鈴木 結子



あなたの今年はどうな年？
新春インタビュー



専門学生として札幌で
enjoyしまくるぞーー
ー！！！！

にった りお
新田 莉央



明るく楽しい働きがいの
ある職場づくりを推進し
ます。

おくやま けんたろう
勤福連会長 奥山 顕太郎

新春インタビュー



地域の命と暮らしを守る
消防士になれるよう
励みます

ふくとみ せい
福富 笙



健康に気をつけて勉強
と生活の両立をする

ほしな りょうた
保科 龍汰



進学先でも頑張ります！

すぎの ともや
杉野 友哉



大好きなイラストで名寄市
のための制作活動に参加し
たい！

いしかわ
石川うらら



部活を盛り上げて名寄を元気と
笑顔のあふれる活気のある街に
したい！！

さいとう ゆう さかもとあゆむ みうら いちか
齋藤 優 阪本 歩 三浦 衣知香

主な
補正
予算

水利施設等保全高度化事業費

(ちえぶん地区)

補正額 1,350 万 5 千円



国・道と進める智恵文地区農地整備事業において、労務単価の上昇等により事業費が増加したため、必要となる負担金 1,350 万 5 千円を追加しました。

名寄市議会政務活動費の特例に関する条例

名寄市における厳しい財政状況を鑑み、議会としても市民の負託を受けて活動している立場として、議員一人ひとりが自己規律を持ち、財政改善に向けて具体的な行動を取ることににより、市民の負担を少しでも軽減し、名寄市が直面している困難を乗り越えるための一助になるものと認識し、令和8年4月以降の今任期中における政務活動費を交付しないこととする特例条例を制定しました。

主な
条例
制定・改正

名寄市ピヤシリスキー場条例の一部改正

名寄市ふうれん望湖台自然公園条例の一部改正

名寄市都市公園条例の一部改正

北海道宿泊税条例が令和8年4月1日から施行されることに伴い、宿泊税の徴収が開始されるため、それぞれの条例の一部を改正しました。

- ※ 名寄市ピヤシリスキー場条例 → 宿泊税及び入湯税を徴収
- ※ 名寄市ふうれん望湖台自然公園条例 → 宿泊税を徴収
- ※ 名寄市都市公園条例 → 宿泊税を徴収
(センターハウス、コテージ)

定例会の概要

▼第4回定例会が11月27日から12月10日までの14日間の会期で開かれました。
▼9人の議員が一般質問を行いました。

11/27 議員協議会

「名寄市総合計画(第2次)後期実施計画の見直しについて」と「名寄市における財政課題について」を案件に、第5回議員協議会が開催されました。

名寄市総合計画
(第2次)後期実施
計画の見直しにつ
いて

後期実施計画の見直しでは、名寄東病院再整備事業や公立保育所整備事業など5事業が新規に追加され、事業完了や廃止の判断により11事業が削除されたとの説明がありました。

名寄市における
財政課題について

財政課題については、様々な財政支出

の増加が見込まれる中、令和8年度予算における一般財源ベース5億円削減に向け、事業の選択と集中の実質化に取り組んでいくと説明がありました。

その後、道路整備や公共下水道事業の後期計画期間事業費が大幅減額となっている状況や、今後の財政運営の課題として、老朽化が進む名寄庁舎への対応についてなど質疑が行われました。



定例会

令和7年 第4回定例会 議決結果

議案番号	議 件 名	結 果
議案第1号	名寄市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	原案可決
議案第2号	名寄市情報通信技術を活用した行政の推進等に関する条例の一部改正について	原案可決
議案第3号	名寄市印鑑条例の一部改正について	原案可決
議案第4号	名寄市ピヤシリスキー場条例の一部改正について	原案可決
議案第5号	名寄市ふうれん望湖台自然公園条例の一部改正について	原案可決
議案第6号	名寄市都市公園条例の一部改正について	原案可決
議案第7号	名寄市総合福祉センター条例の一部改正について	原案可決
議案第8号	名寄市手数料徴収条例の一部改正について	原案可決
議案第9号	名寄市博物館条例の一部改正について	原案可決
議案第10号	名寄市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について	原案可決
議案第11号	名寄市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について	原案可決
議案第12号	名寄市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について	原案可決
議案第13号	名寄市在宅老人デイサービスセンター条例の一部改正について	原案可決
議案第14号	指定管理者の指定について（名寄市スポーツ施設）	原案可決
議案第15号	指定管理者の指定について（名寄ピヤシリスキー場、名寄市ピヤシリシャンツェ、体育センターピヤシリ・フォレスト）	原案可決
議案第16号	指定管理者の指定について（名寄市大橋地区コミュニティセンター）	原案可決
議案第17号	指定管理者の指定について（名寄市ゆきわらべ雪冷貯蔵施設）	原案可決
議案第18号	指定管理者の指定について（名寄市風連農産物出荷調整利雪施設）	原案可決
議案第19号	指定管理者の指定について（名寄市東部地区集落センター）	原案可決
議案第20号	指定管理者の指定について（名寄市西部地区集落センター）	原案可決
議案第21号	和解について	原案可決
議案第22号	令和7年度名寄市一般会計補正予算（第5号）	原案可決
議案第23号	令和7年度名寄市介護保険特別会計補正予算（第2号）	原案可決
議案第24号	令和7年度名寄市立大学特別会計補正予算（第1号）	原案可決
議案第25号	令和7年度名寄市水道事業会計補正予算（第1号）	原案可決
議案第26号	令和7年度名寄市下水道事業会計補正予算（第1号）	原案可決
議案第27号	名寄市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について	原案可決
議案第28号	名寄市パートタイム会計年度任用職員の報酬、手当及び費用弁償に関する条例の一部改正について	原案可決
議案第29号	名寄市特別職の職員の給与に関する条例の一部改正について	原案可決
議案第30号	名寄市教育委員会教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部改正について	原案可決
議案第31号	名寄市職員の給与に関する条例の一部改正について	原案可決
議案第32号	名寄市フルタイム会計年度任用職員の給与に関する条例の一部改正について	原案可決
議案第33号	工事請負契約の変更について	原案可決
議案第34号	名寄市議会政務活動費の特例に関する条例の制定について	原案可決

意見書

女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書

OTC 類似薬の保険給付の在り方の見直しについて慎重審議を行うことを求める意見書

食料・農業・農村政策確立に関する予算の拡充等を求める意見書

夢あるまちづくりを

持続可能な取組を

令和8年度予算編成に向けて、人口課題も踏まえ、行財政改革を進める人材育成、財政改革、事業

選択の基本的な考え方は。

A 人材育成では、職員確保を含めた仮称「名寄市人材育成・確保方針」を策定する。

財政と事業選択改革では、集中すべき事業、事業の廃止・縮小・統合など行革実施本部所管委員会において検討・協議を進めている。支出面の負担金、補助金は社会情勢や市民ニーズ、取り巻く環境の

変化などを鑑み、公益性や有効性の検証結果に基づき協議を進める。

総合計画の推進は

次期総合計画策定に向けて、第2次計画の進捗状況と第3次計画策定の基本姿勢は。

A 第2次実施計画は、毎年ローリングを行い進めてきたが、中期計画期間には新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、事業費の増減もあった。第3次策定にあたっては5つの基本方針を示し、新たに「ウェルビーイング」のアンケートも実施。各分野における幸福度を市民の皆様から意見聴取することで、幸福感を可視化できる。



市政クラブ

ひがしかわ たかよし
東川 孝義 議員



町内会への出前講座で
のーと名寄、ゴミ分別の理解を深める

住みつづけたいまちづくり

地域福祉の推進について

Q 成年後見センターの支援体制及び現状と課題について伺う。

A 成年後見センターは、平成30年1月から名寄市社会福祉協議会へ業務を委託している。窓口は総合福祉センター内にあり、社協内の業務も兼務しているが、4人に対応している。相談対応は、社会福祉士の有資格者があたっている。電話や窓口で対応するほか、必要に応じて自宅訪問により、判断能力に不安のある方の生活や財産管理などの相談に応じている。法人後見を受けているが、財産管理など複雑なものは専門職後見人が必要となる。上川北部地域は弁護士が不足しているため、困難事例を受任する際に課題が生じる可能性がある。今後、



市政クラブ

えん どう たか お
遠藤 隆男 議員



「住み慣れた地域で住みつづけられる」支援・対策を

物価高騰への早急な生活支援を

ヨロカで早期の交付を

Q 食料品や燃料費の

価格高騰により一般

家庭、子育て世帯に

深刻な影響を与えて

いる。早急な生活支

援とスピード感を

持った実施。電子地

域通貨「ヨロカ」で、

早期の交付推進を。

A 重点支援地方交付

金の内容について、

お米券や電子クーポン

などによる食料品

の物価高騰に対する

特別加算の拡充が示

されたが、いまだ拡

充された部分の要綱

が届いていない。名

寄市として活用方法

が決定していない。

関係機関とも情報共



明 公
たか はし
高橋 議員
しん すけ
伸典



有し、庁内で協議し
ながら速やかに決定
する。

ヨロカポイントの

配布は過去にも行っ

た経過があり、速や

かな取組が可能。

ヤングケアラーの支

援充実を

Q 共働き・ひとり親

の影響で、家事や家

族の世話を担うヤン

グケアラーが増加傾

向。早期に相談支援

を。

A 表面化しにくく、

学校など関係機関と

連携し、見守りや定

期的に教育相談、個

人面談を行い、子ど

もたちが相談しやす

い体制づくりに努め

ている。

【他の質問】

安全安心の除排雪体

制を



ヨロカポイントで速やかな交付の実施を

様々な分野で職員のスキルを

市職員の兼業について

Q 兼業に関するルー

ルの現状は。

A 地方公務員法第38

条に基づいた「名寄

市職員の営利企業等

の従事制限に関する

規則」に準じ判断し

ている。事例では専

門知識を要する非常

勤講師、各種委員会

の委員、非常勤医師

予備自衛官などがあ

る。

今後どうあるべきか

Q 兼業の許可を制度

化している自治体も

ある。人口減少、高

齢化の中、地域貢献

をする兼業を積極的

に許可することは必

要なことではないか。

令和7年6月の総

務省通知で地方公務

員の兼業について

「職員による自律的

なキャリア形成、自

己実現のニーズの高

まりや、高齢化・人

口減少など社会情勢

の変化を背景として、

希望する職員が兼業

できる環境を整備す

ることが各地方公共

体には求められてい

る」としている。名

寄市でも兼業に関す

る許可制度について

検討するが、まずは

全体の奉仕者として

信頼確保が重要。そ

の上で地域実情を踏

まえ地域で活躍する

人材育成、職場づく

りに取組む必要があ



市政クラブ
みず ま
水間 議員
けん じ
健詞



多様な働き方でスキル活用とキャリア形成

将来に希望の持てる名寄市を



市政クラブ
谷 聡 議員



職員数の数値目標と働き方改革について

Q 数値目標を定める必要性があるとの答弁が以前にあったが、現状はどのようなようになっているか。

A 定数管理に取り組むことは重要かつ必要だが、将来的な業務量を見据えた職員定数は慎重な議論と時間を要する。

事業の「選択と集中」について

Q 単なるスローガンにすることなく市長の政治責任において政策の優先順位を定める必要があるのではないか。

A 事業の優先順位を



行政改革推進基本計画

しっかり受け止め、今後どのような形で進めるか市民に分かりやすく示していく。合理化・効率化をもっと重視すべき。

Q 「第2次名寄市行政改革推進基本計画」の基本的な考え方「において合理化や効率化、コスト削減が重視されていないように見受けられる。

A 単なるコスト削減を目的とした行革であってはならない、という意味であり重視していなかった訳ではないが、わかりにくい表現は改めた。

子育て環境日本一を目指して



市民ネット
山崎 真由美 議員



多様なニーズへの対応は

Q 保育所等における待機児童の実態と待機児童0名を目指す対応は。

A 令和7年度当初の待機児童は0名であるが、現在は8名の状況にある。解消に向けては、保育士等の確保が必要であり、保育士等就職支援給付金や保育士等宿舍借上支援補助金を実施している。

また、名寄市立大学社会保育学科と連携し、学生アルバイトの受け入れもしている。

こども誰でも通園制度は

Q 令和8年4月からの受け入れ体制は。

A アンケート調査の結果から、一日あたりの利用量見込みを5人とした。公立施設に加え、民間施設の協力も得られるよう考えている。

Q 予約なしでも「にっこらんど」を利用できるようにと求める声があるが、対応は。

A 事前予約の方から優先で



開設4年を迎えた「にっこらんど」

【他の質問】
中心市街地活性化の取組について、ベンチプロジェクトについて

「住民の福祉の増進」を基本に

A 将来の財政リスクに備え、基金を一時期は100億円を有したが、令和4年度以降、物価や人件費の高騰で基金の取り

Q 予算編成にかかわって市は5億円削減の目標をかけた。市民からは人件費の削減や冬の雪対策、高齢者支援など削られるのではないかと不安の声がある。市長訓令では、市民にとって真に必要なものは、市民の幸せのために議論を述べている。そこで財政の基本、入るを制することが必要なのでは。



利用者中心のデジタル化で行政サービスを

崩しが続く歳出に見合う歳入が確保できていない。まずは、必要とされる事業に財源を集中させていく。

Q DXの強力な推進が不可欠としているが、自治体の使命は「住民の福祉の増進」である。手続き等のオンライン化は必要と考えるが、それを利用できない市民へのサービスや強力に進めることについて

A 危惧される。考えは。DXの推進は職員の人手不足などに対応し、質を落とさず福祉の増進を図るため重要。「オンライン化基本方針」でデジタルとアナログの共存を明記。利用者中心の行政サービス設計を進める。

【他の質問】

「大学の力を活用したまちづくり」について



日本共産党

かわむら ゆきえ
川村 幸栄 議員



名寄市の課題

Q 令和8年度予算編成について

A 複合施設整備で協議してきた。現状と計画では、ずれが生じ難航している。

Q コミュニティバス

Q 予算編成と財政の健全化について伺う。

A 選択と集中の実質化。5億円の削減を目標に住み続けたいと思える効率的な財政の健全化に努める。

Q 人口減少、少子化対策について伺う。

A 若い世代から選ばれるまちづくりを進める。

Q 公共施設等再配置計画について伺う。



課題解決に取り組む名寄市

A 運行日時の拡大、市民や利用者の不安解消に向け各種説明会の開催、周知を希望する時間に乗れる等利便性は高い。丁

Q 今回の総合計画審議で対象者を70歳未満に制限をした理由について伺う。

A 若い世代の意見が少ない傾向のため、周知が不足していた。



市民ネット

たかの みえこ
高野 美枝子 議員



宗谷本線を廃線にしない

抜本的な改善方案

令和8年度末までに取りまとめる「抜本的な改善方案」の内容は、

現在、JR北海道から具体的に示されたものではなく、令和6年度から実施した取り組みを検証していく中でJR北海道と沿線自治体が協議・議論を重ねた上で示されるものと考えている。廃線についてのは持っていない。

徹底した利用促進

国の監督命令にある「徹底した利用促進」を進めるには市が本気度を見せる必要がある。



共生なよろ
なか はた たか ゆき
中 孝幸 議員



要がある。名寄駅のホームを渡る跨線橋の危険性を放置しておいてJR利用促進の姿勢は感じられない。車両の入れ替えによって1番線のみを使用する等で跨線橋を使用しない方策をJRと協議することはできないか。

1番線のみを使用する。については本市からJR北海道に申し入れをしている。JR北海道からは同じ時間帯での乗降がある場合や、利用の多い特急列車を優先的に1番ホームに乗り入れる場合には異なるホームの使用は避けられないと聞いている。



1番線ホームから見た2番線を発車する列車と跨線橋

議会を代表して活動報告をお届けします



やま だ のり ゆき
山 典幸 議長

今定例会では、一般質問に9名の議員が登壇し、新年度予算編成、行財政改革、次期総合計画などについて議論が交わされました。財政運営が厳しさを増す中、行政と認識を共有しながら議会としての役割と責任を果たすため、覚悟をもって事業の厳選に努めなければなりません。

次の第1回定例会は、新年度予算審査の重要な議会です。市民の皆様のご意見を聴取し、持続可能な行財政運営が図られるよう取り組んでまいります。

訂正します

議会だよりなよろ第78号（令和7年11月1日発行）の4ページで、市民ネット倉澤宏議員の総括質疑の中で、下から4行目「かかわらせて」、下から9行目「かかわらず」を「こだわらせて」、「こだわらず」にそれぞれ訂正いたします。

議会日誌 (11月～1月まで)

名寄市議会（本会議）	5日	総務産業常任委員会	2回
議会運営委員会	3回	厚生文教常任委員会	2回
議員協議会	2回	議会報特別委員会	3回

詳しい議会活動は、議会ホームページでご覧いただけます



名寄市議会ホームページ



名寄市議会

検索



厚生文教常任委員会 行政視察



当委員会では「高齢者福祉の増進」をテーマとして、高齢者が活躍できる取り組みや包括的な支援体制の先進地である道外3市の取り組みについて行政視察に行ってきました。

報告



介護保険料の負担を軽減するボランティア活動

介護支援ボランティア制度を実施する中で、高齢者が社会活動に参加することで介護予防に資することを目的に、活動に参加した方へ得点を付与する事業です。

参加者アンケート結果では、生活に張り合いができた、健康になったなど、良い影響があり大きな効果が表れていました。名寄市でもボランティア活動の普及が可能な事業と感じました。

東京都 稲城市
『介護支援ボランティア制度について』



就労支援と社会参加で生きがいと介護給付費の抑制を

アクティブ・シニア応援窓口を設置し、いつまでも生きがいをもって活動ができる地域社会の実現を目指す事業です。趣味のサークルに関する社会参加の窓口と就労支援を目的とした窓口をワンストップ化することで利用者の利便性が高められており、名寄市も福祉分野・労働・社会教育の連携した施策展開の必要性を感じ、参考になりました。

神奈川県 綾瀬市
『アクティブ・シニア応援窓口について』



重層的支援体制で誰でも安心して自分らしく暮らせるまちに

本事業は、地域住民の生活課題が複雑化・複合化する中、制度の狭間にある困りごとにも対応でき支援の枠組みを縦割りではなく一体的に捉え、包括的な支援体制を構築することが目的です。名寄市においても高齢化社会を迎え、高齢者の孤立・孤独の問題など複合的な課題解決に向けたまちづくりの方法として「重層的支援体制整備」の重要性を感じました。

神奈川県 鎌倉市
『重層的支援体制整備事業について』

きぼう



特別に意識せずに暮らし続けること

しもかわ ら な な か
下河原 菜々花

私は名寄で生まれ、小中高とこの地域で過ごしました。

高校は下川に通っていましたが、生活の拠点は名寄にあり、今もこのまちで働き、暮らしています。

長く住んでいると、名寄のことを特別に意識する場面は多くありません。良いところも大変なところも含めて、日常としてそこにある、という感覚に近いのかもしれない。

それでも同じ場所で暮らし続け、顔を合わせ、何気ない会話を重ねていく中で、人とのつながりが静かに積み重なっていくことを感じます。

そうした日常の積み重ねが、このまちを支えているのだと思います。

これからも名寄で続いていく日々の中で、一人ひとりの暮らしが大切にされ、その先に小さな「きぼう」が残っていくことを願っています。



開催して良かった記念ライブ

ほりぐち きえこ
堀口 貴恵子

昨年7月、エンレイホール開館10周年記念として「山下洋輔ジャズ・カルテット LIVE」に実行委員会事務局として参加しました。こけら落としに続き10周年も是非ということで準備を進め、一昨年は阿佐ヶ谷ジャズにも足を運び、メンバーが直接お願いをしてきました。2016年日野皓正LIVEの実行委員会(NCMC: Nayoro City Music 倶楽部)に新メンバーを加え、FMなよろの強力な支援で、市民の皆様にジャズの魅力を楽しんでいただきました。名寄と風連との合併をきっかけに生まれた、東京都杉並区とのご縁がつないでくれたライブです。

10月になり、「山下洋輔さんが年内で活動休止」というニュースに実行委員一同驚き、大変だったけど開催してよかったという思いでいっぱいです。これからも北の都・名寄に、音楽をはじめ素敵な文化を届けることができたらよいなと思っています。

表紙写真の紹介



議会報特別委員会

委員長 高川 幸典
副委員長 今村 芳伸
委員 中山 孝幸
委員 水崎 真由
委員 谷間 健詞
委員 村橋 聡彦

智恵文小中学校

「ドローン体験学習（ドローンからの空撮）」です

智恵文小中学校の4年生～8年生を対象に、名寄高校情報技術科1年生と名寄自動車学園より講師をお招きして、体験交流学習を行いました。

「ドローンが拓く新しい空の時代」をテーマに、社会におけるドローンの役割や活用法について学び、操縦体験を通してドローンの魅力を体感することが目的です。

子どもたちは、高性能な数機のドローンに興味関心を高め、講話や操縦体験を通してドローンを身近に感じとり、活用法の理解を深めました。

